

社会的養護の社会化フォーラムを通して、松阪地域にも子どもに関わる活動をしている団体はたくさんあることがわかりました。各団体がつながり合えるように、このコーナーで紹介させていただきます！



代表の馬場啓子さんは、2014年から地域の栄養士、保育士、農家の方々によるボランティアグループ「はぐくみ隊」を立ち上げ、三重県立みえこどもの城で毎月第3日曜日の10時から12時に幼児から小学生の親子が楽しく食に携われる簡単おやつづくりをしています。レシピは、家庭であるもので手軽に作れて、季節を感じる食材を使い、目で見て、触って、香りを感じられる五感を使った料理をしています。

参加者は、リピーターが多く募集と同時に満員になることが多いと話されていました。高学年の子どもが幼児のお手伝いをしてくれたり、お団子作りをした時には、米粒くらいの小さいお団子をたくさん作ったり、星型のお団子を作ったりします。子どもがやりたい、してみたい事を見守り、子どもの主体を大事にした活動をしています。今後は活動場所を移動して「出張はぐくみ隊」として活動の場を広げていきたいと話され、ボランティアも募集しているそうです。



おしらせ

チャイルドラインの資金づくりのためにファンド活動をしています。今年はお祭りが次々と中止になり、バザーが出来ませんでした。チョコレート・ちゃんぽん・募金などご協力をお願いします。

●チャイルドラインMIE ●こどもほっとダイヤル 

(きいてほしいな...) (助けて！も言える)

子どもの心を受け止める 子どもだけが相談できる

18歳までの子ども専用電話 18歳未満の子どものための相談電話

0120-99-7777 0800-200-2555

毎週 月曜日～日曜日 毎日 午後1:00～午後9:00

午後4:00～午後9:00 (12月29日～1月3日はお休み)

特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター

〒515-0084 松阪市日野町788 カリヨンプラザ1F (開所日・時間 月～金10:00～17:00)
TEL 0598-20-8344 FAX 0598-20-8345 ホームページ <http://www.mknpo.jp/> eメール info@mknpo.jp

●この会に賛同し、会を支えてくださる個人・団体の方を募集しています●
正会員：年1口5,000円 支援会員：年1口3,000円 賛助団体会員：年1口10,000円
※入会金：300円

会員数 正会員：21名 支援会員：96名 賛助団体会員：24団体 (12月末日現在)

<p>【賛助団体会員】(敬称略)</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社アクアメティカル 医療法人 イワサ小児科 うれしの 太田クリニック 株式会社 SK スズキ 医療法人 大久保クリニック 	<ul style="list-style-type: none"> おおたクリニック 岡田パッケージ株式会社 医療法人 河合産婦人科 株式会社 阪本事務機 医療法人 桜木記念病院 ささおこどもクリニック 	<ul style="list-style-type: none"> 医療法人 地主矯正歯科クリニック 鎮守の森を夢見る会・その二 東海印刷株式会社 東海シール株式会社 Smile Loop Photo ナガフジ産業有限会社 	<ul style="list-style-type: none"> はせがわこどもクリニック 健康体操 ひまわり会 株式会社 富士土地 松阪市健康体操連絡協議会 医療法人 南産婦人科 医療法人社団 鷺尾小児科
--	--	--	---

他一団体

K O D O M O 21

子どもたちがのびやかで豊かな「子ども時代」を過ごすために

Winter NO.210
2021年 1月 1日
発行元：特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター

熊野へ冬キャンプ!



日 時:2020年12月12日(土)・13日(日)
場 所:三重県熊野市内「リトルファーマーズ農場」
参加者:小4～6年生 15名 スタッフ 4名

子ども会議&事前説明会
日時:11月29日(日)
18:30～20:30
会場:花岡地区市民センター

松阪子どもNPOセンターでは、子どもにとっての遊び体験・自然体験・社会体験が大切と考え、夏休みのキャンプを企画しましたが、直前にコロナの影響で中止することになりました。特定非営利活動法人子どもステーションくまのの協力のもと、冬キャンプをすることになりました。子ども会議&事前説明会には15組の親子の参加があり、学校区を越え、学年も違う子ども達のグループで、グループ名やルールを考えました。

農場に着いてテントを張り、昼食を食べましたが、一人テントの中でお弁当を食べている子がいて、皆と食べたら楽しいのに「と思い声をかけると「ここで食べる」と返事が返ってきました。動物と触れ合う時間になりその子が、私の傍に来て「楽しい」と言って農場の犬や猫の話をしてくれました。2日間一人ぼっちにならないかと心配になりましたが、子どもにはそれぞれの楽しみ方があるのだと改めて感じる事ができました。また、ちょっとした言葉のかけ違いで喧嘩になり、一人の子がグループから離れてしまいましたが、スタッフが話を聞き、どうしようか一緒に考えることで、元のグループに戻って行きました。子どもが自分で決めるのを待つ場面でした。

キャンプファイヤーの後、冬の花火をして就寝の時間になりましたが、満天の星を皆で見ました。流れ星もみつけ、とてもきれいな夜空でした。自然の中で思い切り遊び、満喫して帰路につきました。



ミュージカル「リドルフとイッパイアッテナ」
イツフォーリース公演

日 時 12月5日(土)15時～16時30分
会 場 クラギ文化ホール
参加人数 431名 申込人数 506

松阪で質の高い舞台鑑賞を開催したいと働きかけて、今回国の文化芸術収益強化事業として無料で開催できることになり、当センターは協力団体として取り組みました。当日は沢山の親子連れが見に来てくれました。

アンケートには、「本格的なミュージカルを近隣施設で観られてよかった」「5歳の娘が初めから終わりまでしっかり観ていました」「小2の息子は、行くまであまり気乗りではなかったのですが、とても良かった、来てよかったと言っていました」などの声が寄せられ、これを機会に引き続き松阪でも演劇を開催したいと思います。



「いい子」とは？

親からみた「いい子」とは？と尋ねられると、聞き分けのいい子、わがままを言わない子、手のかからない子などをあげてしまいがちですが、書き出してみると、「いい子」とは親にとって都合のいい子なのでは？と感じてしまいます。子どもにとって親は、絶対的存在で、褒めてもらいたいという思いは当然の感情だと思います。私自身も、親の期待が大き過ぎるあまりに、その期待に応えようと自分の気持ちを胸の内に押し込み、「いい子」でいなければと、無理をしてしまっていました。自分自身と、自分で作った「いい子」像にギャップがあり、そのすき間を埋められない虚しさや漠然とした不安があり、自分に自信が持てないでいました。

どんなに小さな子どもでも、必ず意思を持っています。子どもが「ねえねえ」と発すれば「なあ〜に？」と子どもの言葉に耳を傾け応える、子どもの気持ちに寄り添い子どもの気持ちを受け止められる親でありたいものです。



日本と世界のちがい

日本の子どもが諸外国の子どもに比べ自己肯定感が低いのは「自分があるままでいい」と思えず、自分に自信が持てないためだと思われる。(グラフ参照) 育つ過程で「ダメ」「～なさい」と自分のすることを否定され、指示指導ばかりされていると、できるかできないかを評価基準として、正解は何かを自分の外に求めるため、今自分は何を感じているのか、何をしたいのかがわからなくなってしまいます。

4年前イタリアのレッチョ・エミリアの保育園を訪問した時、2歳児10人くらいが保育者とともに円になり、午前中どう過ごしたか(何をして遊んだか)を一人ずつ話していました。そこから他人の遊びをヒントにし、自分の遊びに取り入れるのだそうです。これは、自分が何を思っているのかを話し、他人と共有することで、価値観の違いを学び合っているということでした。他人はそれぞれ違うこと、その違いを尊重することを小さいころから学び、身につけていて、保育者も教えるのではなく、提案し寄り添う保育をしているところが印象的でした。

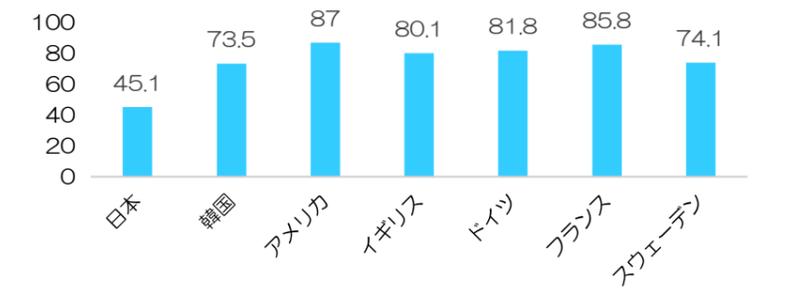
自分がやりたいことをどんどん探求し、やり遂げた達成感の積み重ねと、否定されずありのままを受けとめられることで、自己肯定感が育まれ、自分の存在も他人の存在も大切にできると思います。

我が国と諸外国の若者の意識に関する調査(平成30年度:内閣府)

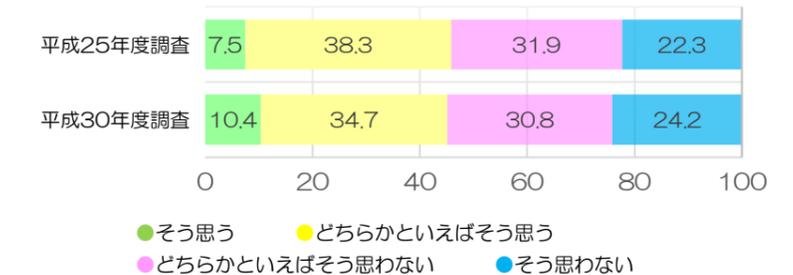
《自分自身に満足している》 調査対象: 満13歳から満29歳の男女

●諸外国との比較

「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた割合



●前回調査との比較



愛着形成

「自己肯定感」は、「自分は生きている価値がある」、「大切な存在だ」、「必要な人間だ」と思う感覚のことです。この感覚は、生きていくうえで大切な心の土台となります。赤ちゃんの時は抱っこされることで「大切にされている」と感じます。話せるようになると、話を聞いてもらい、気持ちをわかってもらうことで「大切にされている」と感じます。

不安な時や寂しい時に十分に心が満たされ安心できると、「自分は大切にされている」「愛されている」と感じて「自分は存在価値がある」という気持ちも育ちます。この愛着形成が心の土台となる自己肯定感を育み、相手を信じ、思いやりを持って深い人間関係を築くことができるようになります。



一方で、泣いてサインを出しても、心が満たされないことが続くと、「自分は大切にされていない」と諦めて、悲しみや怒りの気持ちを心の中に閉じ込めて、いい子でないと親から嫌われるのではないかと感じてしまいます。喜怒哀楽が少なく手がかからない子どものように見えますが、心のダメージを受けたまま育ち、自分自身を否定し、相手を信じることができず、人とうまく関係を結ぶことができなくなります。このことから、子どもの成長には、愛着形成がとても大切です。

子どもの権利と自己肯定感



大人の役割

大人の役割として、子どもの自己肯定感が育まれる環境をつくるのがとても重要です。

これまでもこの紙面で子どもの権利について考えてきましたが、愛着形成や自己肯定感が育まれるために必要な子どもの気持ちや意見を尊重するということは、子どもの権利を保障することでもあります。

子どもの自己肯定感が育まれる環境づくりのひとつとして、子どもの権利条約にうたわれている「子どもの権利」を理解する大人を増やしていくことが重要です。一人でも多くの大人が、子どもを一人の人として尊重し、権利主体と捉えるようになることで、子どもたちの自己肯定感が高まることにつながり、自分らしく育つことができるようになります。

一方で大人も自己肯定感を持てずに生きにくさを感じている人は少なくありません。

子どもも大人も、ひとり一人があるままでいいと思える社会を目指して、子どもの権利について学び合い、理解を深めることが大切です。子どもの権利について、一緒に学びませんか？

子ども支援者養成講座 松阪地域ビネオ講座「子どもの権利」

日時: 2021年3月6日(土)

10:30~16:30

場所: 松阪市市民活動センター

参加費: 1講座 1,700円

〈講座1〉「子どもにはチカラがある」

講師 子どもの権利条約総合研究所

関西事務所 所長 浜田進士さん

〈講座2〉「子ども支援のまちを創ろう」

講師 早稲田大学名誉教授 喜多明人さん

〈グループディスカッション〉

〈講座内容〉

子どもにはチカラがあります。このチカラを発揮させるには、何が必要なのでしょうか、子どもが必要としているものは、その子に聞いてみないとわかりません。子どもの権利が保障される社会になるために、大人の役割とは？

また、喜多先生の講座では、子どもたちのコロナ禍で遊びが奪われている。それがストレスになりイジメに繋がっているのでは？などと熱く語られます。

是非、私たちと子どもの権利について学びましょう。